古石ひでさと４期目に向かっての議会活動
古石 ひでさと 後援会だより
URL：http://古石.com/

第３０５６号
発行日　令和２年３月
古石　ひでさと後援会事務所
岩見沢市幌向南１条１丁目
TEL　２６－２２２６

市政についてご提案、ご意見などがありましたらお聞かせください。

E-mail-furuishi@gray-plala.or.jp

東京五輪開催　崖ぷち　延期

東京五輪 崖っぷち
新型コロナ影響 延期、中止、無観客？

東京五輪の開幕まで約4カ月と迫る中、新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催が危うくなっている。五輪予選を兼ねた大会を含む多くの競技会が世界各地でストップ。東京大会はもはや通常開催が現実的と言えなくなってきた。

補償、人件費 課題に

五輪は200を超える国・地域から計1万人近くが「選手村」に集結する大イベント。感染防止の観点からは無観客でも安全とはいえない。大会組織委員会にとっても、無観客開催は現行予算で900億円を計上するチケット収入に大きく響く。国際オリンピック委員会（IOC）は放映権料を守ることになるが批判は免れないだろう。

トランプ米大統領は「1年延期」に言及。予定通りの開催を強調してきたIOCのバッハ会長は一転して、世界保健機関（WHO）が勧告すれば「従う」と述べた。1年か2年の延期か、もしくは中止か。両案が取り沙汰されているが、いずれの選択も甚大な影響は避けられない。

延期した場合、組織委は既存会場の使用や期間中の再交渉を余儀なくされる。チケットは既に大半を販売しており、仮に1年後、2年後に全く同じ日程を組むとしても払い戻しや再販売が必要に。組織委関係者は「既に数千人を超す職員を維持するための人件費もかさむ」と頭を抱える。

中止になればチケットの払い戻しに加え、パートナー企業への補償も迫られそうだ。

東京大会の国内スポンサー契約は好調に推移し、現行予算で3480億円と総収入の55%を占める。そのパートナー企業は関連イベントや広告、CMなどにも予算を投じており、損害は大きい。五輪関係者は「企業側は絶対にやめたくない。延期なら、また1年稼げると思うだろう」と明かした。

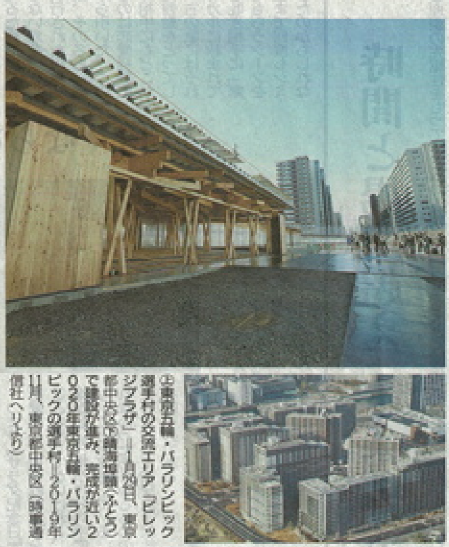
晴海の選手村は大会後、約5600戸の分譲・賃貸用マンションに。2023年春予定の入居にも支障が出る可能性がある。

延期は各競技の国際大会にドミノ式の影響を及ぼす。

21年は陸上、水泳、体操、柔道、レスリング、卓球などの世界選手権が予定され、特に7～8月に開催される陸上、水泳は日程調整を迫られる。2年延期の場合、22年は北京冬季五輪、杭州アジア大会、サッカー・ワールドカップ（W杯）カタール大会とビッグイベントが重なる。

五輪はスポーツの祭典。主役のアスリートが誰より割を食うことになる。既に予選や代表選考に影響が出ているが、延期や中止となればその比ではない。1年延期なら選考をやり直すのかどうか。各競技団体の方針に納得できずスポーツ仲裁裁判所（CAS）に訴える選手も出そうだ。

2年延期なら選考が白紙になる公算が大きく、全盛期を過ぎる選手もいる。原則23歳以下の男子サッカーではそう。中止になった場合は、東京五輪のみの追加競技として行われる予定だった野球・ソフトボール、空手の選手が出場の機会を失ってしまう。



㊤東京五輪・パラリンピック選手村の交流エリア「ビレッジプラザ」＝1月29日、東京都中央区㊦晴海埠頭（ふとう）で建設が進み、完成が近い2020年東京五輪・パラリンピックの選手村＝2019年11月、東京都中央区（時事通信社ヘリより）

G7首脳会議 延期意見出ず 官房長官

菅義偉官房長官は17日の記者会見で、先進7カ国（G7）首脳による16日の緊急テレビ電話会議で東京五輪・パラリンピックを延期すべきだとの意見はなかったと説明した。安倍晋三首相が「完全な形」での開催を目指すとした発言には「予定通りの大会を開催したいということだ」と述べ、大会の縮小や無観客での開催は想定していないとの認識を示した。

同時に「予定通りの開催に向けて、IOC（国際オリンピック委員会）などと緊密に連携を取りながら準備を着実に進めていく考えに変わりはない」とも語った。

感染の沈静化「7月か8月」 米大統領が見解

【ワシントン共同】トランプ米大統領は16日、新型コロナウイルスの感染拡大が沈静化する時期について「7月か8月ごろになるのではないか」との見解を示した。ホワイトハウスでの記者会見で述べた。米側でこうした認識が広まれば、7月開幕予定の東京五輪の開催是非の判断などにも影響する可能性がある。

トランプ氏は、沈静化の見通しについて「私も何度となく専門家に尋ねている」と強調。「7月か8月、それ以上長くなるかもしれないと言っている。どうなるか見てみよう」と語った。

トランプ氏はこれまで、東京五輪を予定通り開催するかどうかは日本が判断するべきだとした上で「無観客で実施するよりは1年延期した方が良い」との考えを示している。

五輪・パラ 延期に現実味
首相「完全な形で実施」時期示さず
感染拡大の影響不可避

今夏に開幕する予定の東京五輪・パラリンピックの延期論が現実味を帯びてきた。安倍晋三首相が「完全な形」での五輪を目指すと表明し、開催時期を示さなかったためだ。大会は新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響を受けざるを得ないとの見方が強く、「完全な」五輪は見通せない。延期となれば、マラソン開催地である道内を含め日本経済全体に打撃を与えるのは必至で、関係者は情勢に検討を重ねている。（広田孝明、田島[illegible]）

新型コロナウイルスを巡る東京五輪開催の是非に関して日米首脳とIOC会長の主な発言

安倍首相

「大会組織委員会とIOCとの間で、東京開催の可否に関わる協議や検討は一切行われていない」（2月6日、衆院本会議）
「準備を着実に進めたい。IOCからは日本の迅速な対応について評価を得ている」（2月26日、衆院予算委）
「延期や中止を前提とした影響などの検討は行っていない」（3月6日、参院本会議）
「開催に向け努力している」（3月13日、トランプ米大統領との電話会談で）
「感染拡大を乗り越えて無事、予定通りに開催したい」（3月14日、記者会見）
「完全な形での開催を目指したい」（3月16日、G7首脳電話会議）
「世界が結束をしてウイルスに打ち勝った証しとして完全な形の東京オリンピック・パラリンピックを開催しようではありませんか」（3月17日、党両院議員総会で）

トランプ米大統領

「（予定通りの開催を）望んでいる」（2月26日）
「（開催の是非について）日本次第だ。（開催されなければ）とても悲しいことになる」（3月3日）
「無観客で実施するより1年間延期すべきかもしれない」（3月12日）
「（感染拡大が沈静化する時期について）7月か8月ごろになるのではないか」（3月16日）
※いずれもホワイトハウスで記者団に　（UPI＝共同）

バッハIOC会長

（IOCの最古参委員が開催の判断期限が5月末との考えを示したことに対し）「推測や仮定の話には答えない」（2月27日、電話記者会見で）
「東京五輪の成功に変わらぬ自信を持っている。選手は信頼して全力で準備を続けてほしい」（3月3日、臨時記者会見で）
（予定通りの開催を前提に）「成功に向けて尽力する」（3月4日、臨時記者会見で）
「世界保健機関（WHO）の助言に従う」（3月12日、テレビのインタビュー番組で）
（共同）

※予選や選考に関わる大会の延期・中止相次ぐ。予選方式を見直せば公平性の担保など課題も浮上する事態に

フォーカス FOCUS

首相は16日夜、先進7カ国（G7）首脳の緊急テレビ電話会議で「東京五輪は新型コロナウイルスに打ち勝った証しとして、完全な形で実施したい」と説明。その後、記者団に「G7の支持を得た」と語ったが、開催時期については明言しなかった。

新型コロナウイルスの感染は、アジアだけではなく、欧米でも拡大の一途をたどる。G7の会議を呼び掛けた米国のトランプ大統領は終了後、沈静化の見通しについて「7月か8月、それ以上長くなるかもしれない」と述べ、東京五輪の時期にかかる恐れがあるとの認識を示した。12日には「1年間延期すればよいかもしれない」と述べている。

無観客開催は否定

仮に感染拡大が終息していなければ、プロ野球オープン戦や大相撲のように「無観客開催」にするか、感染が広がる各国からの参加を自粛してもらう「規模縮小」を検討しなければならない。萩生田光一文部科学相は17日の記者会見で「参加国が減るようなことになれば完全とは呼べない」と、状況次第で延期が選択肢になることも認めた。政府高官も「『完全』と言っているんだから無観客はあり得ない」と断言した。

最終的な開催判断を下す国際オリンピック委員会（IOC）側にも不穏な空気が漂う。各競技の代表選考を巡っては、五輪予選を兼ねる大会の中止や延期が相次ぎ、各国内オリンピック委員会（NOC）はIOCに予選の手続き変更を求める動きを強めている。フランス・オリンピック委員会のマセリア会長は16日、東京五輪について「5月末でも[illegible]な状況なら開催を見通せない」と述べた。

政府関係者によると、組織委員会は、すでに2年、1年、3カ月などの延期期間を想定し、水面下でシミュレーションを始めているという。

マラソン変更懸念

仮に五輪が中止になった場合、影響は数兆円に上るとの試算がある。延期でも経済悪化に拍車がかかるのは必至だ。延期の場合、既に出場選手が決まった競技でも選考が論議になる可能性がある。酷暑対策で開催地を札幌に変更したマラソン・競歩についても「延期時期によっては東京に戻すこともあり得る」（道内の自民党議員）との懸念がくすぶる。

開催は首相の政治的責任や政権運営の行方をも左右しかねないだけに、首相周辺は火消しに躍起だ。菅義偉官房長官は17日の会見で「IOCや組織委員会、東京都と緊密な連携を取りながら準備を着実に進めていきたい」と強調。橋本聖子五輪相も「『完全な形』というのは予定通り開催できるよう準備していくということ」と語った。

首相は19日の会見で、26日に福島から始まる聖火リレーのスタートに立ち会う意向を表明した。政府高官は「少なくともそれまで延期や中止の判断はない」と指摘。首相周辺も「聖火が日本に着いて延期になってもずっと火をともし続ける」と開催への意欲を強調した。

予定通り開催 確認 IOC

【ジュネーブ共同】国際オリンピック委員会（IOC）は17日、電話会議形式で臨時理事会を開き、東京五輪を予定通りの日程で実施する方針を再確認した。引き続き各国際競技連盟（IF）との協議でも7月24日の開幕に向けて準備を進める方向性で一致した。

IOCは「東京五輪に向けて変わらず全力を尽くす。現段階で思い切った決定を下す必要はない」との声明を出した。この日は新型コロナウイルス感染拡大で東京五輪の予選が相次いで中止や延期となっている事態への対応策なども協議した。

各IFは五輪予選開催の延長や出場枠を争うポイント対象大会の変更など予選方式の見直しに追われ、選手にも動揺が広がっている。IOCのバッハ会長は「予選方式は柔軟、全ての選手に公平な予選となるよう最善を尽くす」と対策を講じる考えを示していた。

バッハ会長は世界保健機関（WHO）が感染拡大を「パンデミック（世界的大流行）」と表明して以降も、開催是非の判断時期は「設定しない」と強調。トランプ米大統領が「1年」を提案した延期の可能性についても「推測の話はしない」と言及を避けている。

新型コロナ影響 首相、解散戦略に誤算
政治日程見えず レームダック化も
両院議員総会で結束強調

[illegible]受けて延期した党大会に代わる両院議員総会を党本部で開いた。安倍晋三首相（党総裁）は感染症対策や前例にとらわれない経済政策に全力を尽くす考えを改めて示し、党内の結束を呼び掛けた。ただ、新型コロナウイルスの影響で、首相の求心力を左右する衆院解散の戦略には不透明感が漂っている。（藤本康平、広田孝明）

首相は総会で「厳しい状況の経済をV字回復させなければいけない。思い切った強大な経済政策を前例にとらわれず練り上げていく」と強調。「自民党の底力を発揮して、この難局を皆さんと共に乗り越えていきたい。全身全霊で打ち込む」と事態収束を訴えた。

首相が衆院を解散するとすれば、夏の東京五輪・パラリンピック以降との見方が一般的だった。五輪の勢いをかって直後に解散するか、来年1月開会の通常国会中に解散するか。いずれにせよ、党総裁の任期が残り1年半の首相にとって、求心力を維持するためには、解散カードをちらつかせ続けることが重要だった。

だが、新型コロナウイルスの感染拡大で状況は一変。国民への外出自粛要請や経済悪化などによる社会不安が続いており、肝心の五輪の延期論さえささやかれる。党内では「終息しない中での選挙は世論の猛反発を招く」（党ベテラン議員）との見方が大勢だ。

終息の見通しが後になればなるほど、選択肢は狭まる。首相が事実上解散を封じられる形になる場合、党内で首相に代わる「選挙の顔」を求める動きが強まりかねず、レームダック（死に体）化が進む懸念もある。

総会で首相は「悲願」の憲法改正について、党運動方針と合わせて一言触れただけだった。二階俊博幹事長は記者団に「このような時に改憲どうだこうだということを持ち出すことは適当ではない」と語った。

両院議員総会での首相発言のポイント
- 運動方針にある憲法改正も含めて全力を尽くしたい
- 感染症拡大の防止、重症化防止、終息に向けて全力を挙げている
- 政治の最大の責任は雇用を守ること。中小企業、小規模事業者の事業継続を可能にしていかなければならない
- 必要かつ十分な形で、機動的に経済財政政策を間髪入れずに講じていかなければならない
- 厳しい状況の経済をV字回復させなければいけない。思い切った強大な経済政策を前例にとらわれず大胆に練り上げていこう

今後の政治日程と想定される衆院解散のタイミング

2020年	3月末	20年度予算成立	
	6月17日	通常国会会期末	
	7月5日	東京都知事選	
	24日～9月6日	東京五輪・パラリンピック	閉会後に解散?
	11月	米大統領選	
21年	1月	通常国会召集	会期中に解散?
	9月30日	首相の自民党総裁任期満了	
	10月21日	衆院議員の任期満了	次の首相で解散?

資金繰り 事業者限界
居酒屋閉店早め「経費減らす」
ダンス指導 自粛で月謝入らず

「収入がほぼゼロに」「長引けばつぶれかねない」―。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、道内の中小・小規模事業者から各種の相談窓口に連日、深刻な声が寄せられている。外出自粛ムードの拡大で飲食店やサービス業を中心に売り上げは激減。道が緊急事態宣言を出して以降、経営への影響は深刻化しており、窓口の担当者は早めの相談を呼び掛けている。（宮本[illegible]）

窓口で苦悩訴え

札幌市中央区の居酒屋では、[illegible]以降の予約キャンセルが[illegible]。[illegible]

一人で悩まずに

[illegible]

新型コロナウイルス関連の事業者対象の相談窓口

●経営や資金繰りに関する相談

北海道経済産業局中小企業課	☎011-709-1783	平日、土・日曜・祝日とも午前8時30分～午後5時15分
道経済部中小企業課	☎011-204-5346	平日午前8時45分～午後5時30分、土・日曜・祝日午前9時～午後5時

●休業補償や雇用など労働関連の相談

北海道労働局特別労働相談窓口	☎011-707-2700	平日午前9時～午後5時

[illegible]

感染拡大で減少した売り上げを補おうと、本社で小売りも始めた札幌の洋菓子製造・卸の夢工房

注文減 菓子メーカー自ら小売りも

「コロナ」猛威でも五輪開催へ強硬
IOCに選手反発「健康脅かす」

国際オリンピック委員会（IOC）が17日に電話会議形式で開いた国際競技団体（IF）との会合は異論もなく「東京五輪を予定通り開催する」方針で一致した。新型コロナウイルスが猛威を振るう欧州の中でも7月24日の開幕を譲らないIOC。「（選手の）健康が最重要」と言葉では強調するが、選手らから反発の声も出てきた。

「IOCは私たちの健康を危険にさらしたいのか」。東京五輪で陸上女子棒高跳びの2連覇が懸かるエカテリニ・ステファニディ（ギリシャ）はIOCの17日の声明を受けてツイッターに怒りをぶつけた。

2014年ソチ冬季五輪のアイスホッケー女子でカナダの4連覇に貢献し、IOC委員を務めるヘーリー・ウィッケンハイザー氏は、東京五輪を予定通り開催することについて「無神経で無責任だ。この危機は五輪よりも大切だ」と自身のツイッターで非難した。ロイター通信が17日に伝えた。IOCのアスリート委員でもある両氏は「選手は練習ができず、移動も計画できない。五輪予選は世界各国で中止されている」と指摘し、五輪へ向けた準備で不安を抱える選手の心境を代弁した。

サッカーの欧州選手権やテニスの全仏オープンなど主要大会が相次いで予定通りの開催を断念する現状で、IOCの強硬な姿勢は異様にも映る。背景には[illegible]テレビ局や企業への配慮や中止による大幅な減収への懸念が考えられる。来年は陸上や水泳などの世界選手権、2年後には北京冬季五輪やサッカーのW杯が控え、「不[illegible]」[illegible]。

IOCは17日、各国・地域の国内オリンピック委員会（NOC）の選手委員会と電話会議で意見交換した。ロイター通信によると、[illegible]開催に疑問はなかった」と[illegible]。

また、ジャマイカ・オリンピック委員会のサムダ会長は17日、東京五輪が予定通り開催されることを前提とした上で「選手の安全と健康が最優先されなくてはならない」との見解を、ロイター通信の電話インタビューで明らかにした。（共同）

美唄市峰延の田んぼに飛来したハクチョウ

ハクチョウ 落ち穂拾い 美唄の田畑に飛来

【美唄】空知管内では雪解けが例年より早く進み、田畑にハクチョウの群れが姿を見せている。

美唄市峰延の田んぼでは17日、体長1.2mほどの群れ30羽ほどが見られ、ぬかるんだ地面にくちばしを入れ、雪解け水で浮いてきた落ち穂を食べていた。日本野鳥の会滝川支部の越後弘支部長は「今月9日に鳴きながら飛んでいるのを見たが、例年より1週間から10日ほど早い。雪解けが早かったからでは」と話す。

ハクチョウは冬は本州で過ごす。越後さんによると、管内にいるのは4月末ごろまで。その後は徐々に繁殖地のシベリアに向かって飛んでいくという。（勝間田翔）

新栗山赤十字病院 26年度にも開業へ
栗山町議会

【栗山】佐々木学町長は18日の町議会予算審査特別委員会で、栗山赤十字病院の改築に関し、現在の136床から100床に規模を縮小し、早ければ2026年度にも開業するとの構想を示した。町長は答弁で、病院整備方針を6月に決定後、役場内に準備室を設置。2年ほど町民の声を聞いた上で、21、22年度に基本設計、23年度に実施設計を行い、24年度に着工との流れを示した。（十屋孝浩）

岩見沢と芦別

【岩見沢、芦別】岩見沢と芦別の積雪が18日、ゼロを記録した。気象庁の資料によると、最も早い積雪ゼロの記録は岩見沢が1963年3月14日、芦別は90年3月10日で、今回は両地点ともに過去2番目の早さ。

岩見沢では同日未明に積雪6cmだったが、道内上空に4月上旬並みの暖気が流れ込み、最高気温は9・4度まで上昇、午後2時すぎに積雪ゼロとなった。

札幌管区気象台によると、19日も引き続き暖気が流れ込むため、日中は晴れ